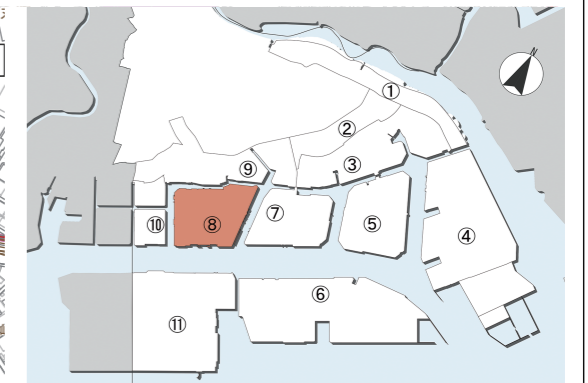
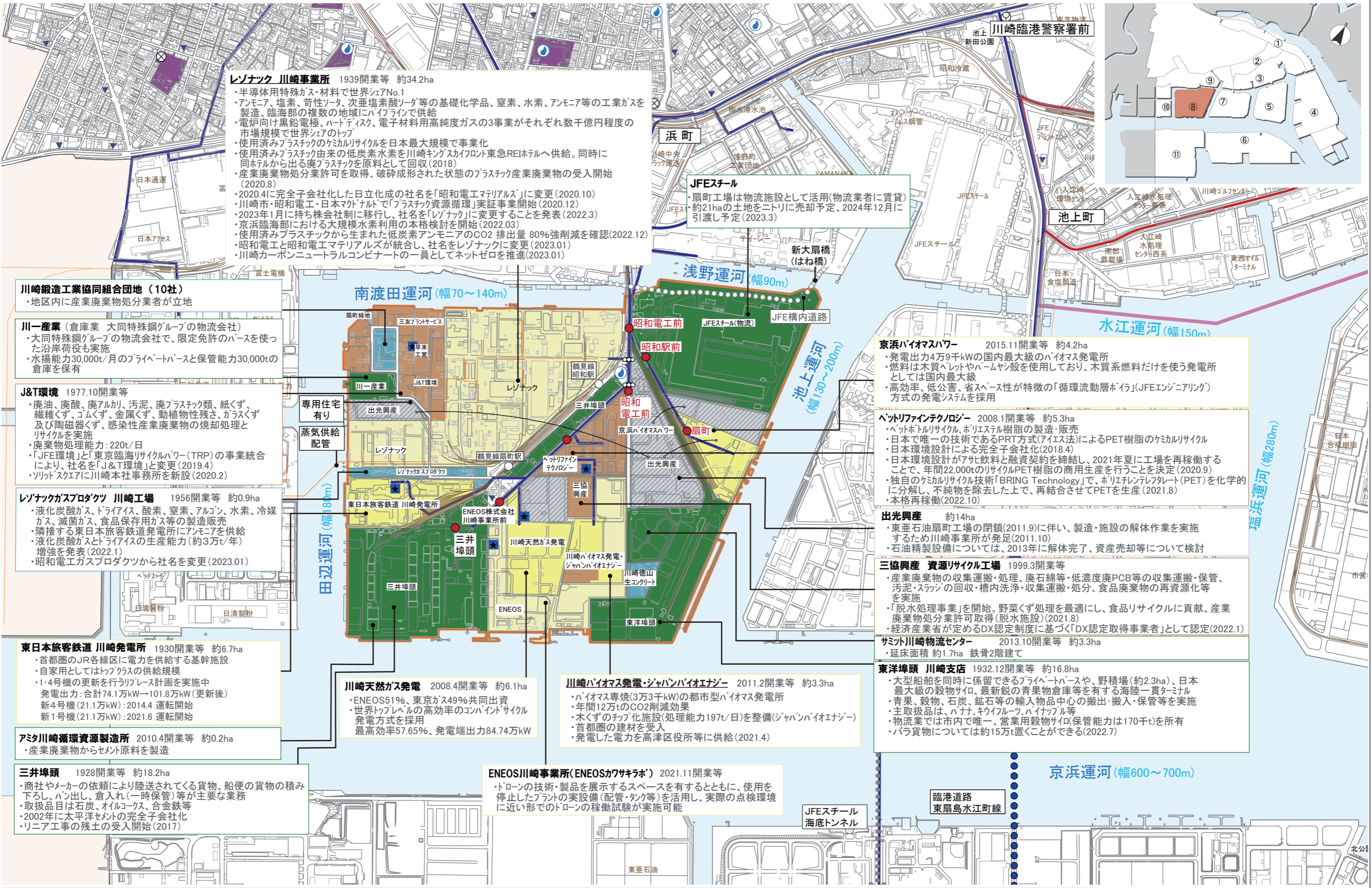


凡例

市域	国際戦略総合特別区域	バス停	警察署	避難所	製造 (石油・石油化学)	公共用地	その他	研究開発
対象地区範囲	都市再生緊急整備地域	鉄道駅	消防署	給水拠点	製造 (石油・石油化学以外)	物流	良好な戸建住宅地	
	特定都市再生緊急整備地域	横断歩道	便利施設 (コンビニ・売店等)	津波避難施設	リサイクル	エネルギー	公園等	
		工業用水道		帰宅困難者用一時滞在施設				

SCALE 1/12000

扇町地区 8



レゾナック 川崎事業所 1939開業等 約34.2ha

- ・半導体用特殊ガス・材料で世界シェアNo.1
- ・アンモニア、塩素、苛性ソーダ、次亜塩素酸ソーダ等の基礎化学品、窒素、水素、アンモニア等の工業ガスを製造、臨海部の複数の地域にパイプラインで供給
- ・電炉向け黒鉛電極、ハードディスク、電子材料用高純度ガスの3事業がそれぞれ数千億円程度の市場規模で世界シェアのトップ
- ・使用済みプラスチックのケミカルリサイクルを日本最大規模で事業化
- ・使用済みプラスチック由来の低炭素水素を川崎キングスカイフロント東急REIホテルへ供給。同時に同ホテルから出る廃プラスチックを原料として回収(2018)
- ・産業廃棄物処分業許可を取得、破砕成形された状態のプラスチック産業廃棄物の受入開始(2020.8)
- ・2020.4に完全子会社化した日立化成の社名を「昭和電工マテリアルズ」に変更(2020.10)
- ・川崎市・昭和電工・日本マテリアルで「プラスチック資源循環」実証事業開始(2020.12)
- ・2023年1月に持ち株会社に移行し、社名を「レゾナック」に変更することを発表(2022.3)
- ・京浜臨海部における大規模水素利用の本格検討を開始(2022.03)
- ・使用済みプラスチックから生まれた低炭素アンモニアのCO2 排出量 80%強削減を確認(2022.12)
- ・昭和電工と昭和電工マテリアルズが統合し、社名をレゾナックに変更(2023.01)
- ・川崎カーボンニュートラルコンビナートの一員としてネットゼロを推進(2023.01)

川崎鍛造工業協同組合団地 (10社)

- ・地区内に産業廃棄物処分業者が立地

川一産業 (倉庫業 大同特殊鋼グループの物流会社)

- ・大同特殊鋼グループの物流会社で、限定免許のバスを使った沿岸荷役も実施
- ・水揚能力30,000t/月のプライベートハースと保管能力30,000tの倉庫を保有

J&T環境 1977.10開業等

- ・廃油、廃酸、廃アルカリ、汚泥、廃プラスチック類、紙くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、動植物性残さ、ガラスくず及び陶磁器くず、感染性産業廃棄物の焼却処理とリサイクルを実施
- ・廃棄物処理能力: 220t/日
- ・「JFE環境」と「東京臨海リサイクルパワー (TRP)」の事業統合により、社名を「J&T環境」と変更(2019.4)
- ・ソリッドスクエアに川崎本社事務所を新設(2020.2)

レゾナックガスプロダクツ 川崎工場 1956開業等 約0.9ha

- ・液化炭酸ガス、ドライアイス、酸素、窒素、アルゴン、水素、冷媒ガス、滅菌ガス、食品保存用ガス等の製造販売
- ・隣接する東日本旅客鉄道川崎発電所にアンモニアを供給
- ・液化炭酸ガスとドライアイス生産能力(約3万t/年)増強を発表(2022.1)
- ・昭和電工ガスプロダクツから社名を変更(2023.01)

東日本旅客鉄道 川崎発電所 1930開業等 約6.7ha

- ・首都圏のJR各線区に電力を供給する基幹施設
- ・自家用としてはトップクラスの供給規模
- ・1・4号機の更新を行うリプレース計画を実施中
- ・発電出力: 合計74.1万kW→101.8万kW(更新後)
- ・新4号機(21.1万kW): 2014.4 運転開始
- ・新1号機(21.1万kW): 2021.6 運転開始

アマタ川崎循環資源製造所 2010.4開業等 約0.2ha

- ・産業廃棄物からセメント原料を製造

三井埠頭 1928開業等 約18.2ha

- ・商社やメーカーの依頼により陸送されてくる貨物、船便の貨物の積み下ろし、パン出し、倉入れ(一時保管)等が主要な業務
- ・取扱品目は石炭、オイルコークス、合金鉄等
- ・2002年に太平洋セメントの完全子会社化
- ・リニア工場の残土の受入開始(2017)

南渡田運河 (幅70~140m)

浅野運河 (幅90m)

池上運河 (幅130~200m)

水江運河 (幅150m)

京浜バイオマスパワー 2015.11開業等 約4.2ha

- ・発電出力4万9千kWの国内最大級のバイオマス発電所
- ・燃料は木質ペレットやパームヤシ殻を使用しており、木質系燃料だけを使う発電所としては国内最大級
- ・高効率、低公害、省スペース性が特徴の「循環流動層ボイラ」(JFEエンジニアリング)方式の発電システムを採用

ベトリファインテクノロジー 2008.1開業等 約5.3ha

- ・ペットボトルリサイクル、ホリエステル樹脂の製造・販売
- ・日本で唯一の技術であるPRT方式(アイエス法)によるPET樹脂のケミカルリサイクル
- ・日本環境設計による完全子会社化(2018.4)
- ・日本環境設計がアサヒ飲料と融資契約を締結し、2021年夏に工場を再稼働することで、年間22,000tのリサイクルPET樹脂の商用生産を行うことを決定(2020.9)
- ・独自のケミカルリサイクル技術「BRING Technology」で、ホリエチレンテレフタレート(PET)を化学的に分解し、不純物を除去した上で、再結合させてPETを生産(2021.8)
- ・本格再稼働(2022.10)

出光興産 約14ha

- ・東亜石油扇町工場の閉鎖(2011.9)に伴い、製造・施設の解体作業を実施するため川崎事業所が発足(2011.10)
- ・石油精製設備については、2013年に解体完了、資産売却等について検討

三協興産 資源リサイクル工場 1999.3開業等

- ・産業廃棄物の収集運搬・処理、廃石綿等・低濃度廃PCB等の収集運搬・保管、汚泥・スラッジの回収・槽内洗浄・収集運搬・処分、食品廃棄物の再資源化等を実施
- ・「脱水処理事業」を開始。野菜くず処理を最適にし、食品リサイクルに貢献、産業廃棄物処分業許可取得(脱水施設)(2021.8)
- ・経済産業省が定めるDX認定制度に基づく「DX認定取得事業者」として認定(2022.1)

サミット川崎物流センター 2013.10開業等 約3.3ha

- ・延床面積 約1.7ha 鉄骨2階建て

東洋埠頭 川崎支店 1932.12開業等 約16.8ha

- ・大型船舶を同時に係留できるプライベートハースや、野積場(約2.3ha)、日本最大級の穀物サイロ、最新鋭の青果物倉庫等を有する海陸一貫ターミナル
- ・青果、穀物、石炭、鉱石等の輸入物品中心の搬出・搬入・保管等を実施
- ・主取扱品は、バナナ、キウイフルーツ、パイナップル等
- ・物流業では市内で唯一、営業用穀物サイロ(保管能力は170千t)を所有
- ・バラ貨物については約15万t置くことができる(2022.7)

川崎天然ガス発電 2008.4開業等 約6.1ha

- ・ENEOS51%、東京ガス49%共同出資
- ・世界トップレベルの高効率のコンバインドサイクル発電方式を採用
- ・最高効率57.65%、発電端出力84.74万kW

川崎バイオマス発電・ジャパンバイオエナジー 2011.2開業等 約3.3ha

- ・バイオマス専焼(3万3千kW)の都市型バイオマス発電所
- ・年間12万tのCO2削減効果
- ・木くずのチップ化施設(処理能力197t/日)を整備(ジャパンバイオエナジー)
- ・首都圏の建材を受入
- ・発電した電力を高津区役所等に供給(2021.4)

ENEOS川崎事業所(ENEOSカワサキラボ) 2021.11開業等

- ・ドローンの技術・製品を展示するスペースを有するとともに、使用を停止したプラントの実設備(配管・タンク等)を活用し、実際の点検環境に近い形でドローンの稼働試験が実施可能